

グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文国際教育研究拠点」
「コンフリクトの人文」セミナー 第9回

「暴力の記憶と民主主義の確立：ペルーの経験から考える」

“MEMORIA DE LA VIOLENCIA Y CONSOLIDACION DE LA DEMOCRACIA:
REFLEXIONES A PARTIR DE LA EXPERIENCIA PERUANA”

講師： サロモン・レルネル・フェブレス博士

要旨： 1980年から2000年にかけて、ペルーは激しい暴力の時代を経験した。独立政府組織CVR（“la Comisión de la Verdad y Reconciliación”：「真実・和解委員会」）がおこなった調査は、これらの年月に関する歴史的記憶を再構成するに十分なものであった。この調査によって、暴力と重度の犯罪的行為を可能にしたコンテクストとして古くからペルー社会が抱える深刻な諸問題があったことが明らかにされた。とりわけ、諸制度の不安定さと民族の細分化へと向かう永続的な文化的傾向が指摘された。こうした歴史的記憶は過去の事実や行為を思い出すことに寄与してきただけでなく、現代ペルーの社会および道徳を語る上で大事な契機となってきた。このため、CVAの調査結果は制度改革を要求する上での基盤とみなされるようになり、それなしでは民主制への移行は不安定で短期的なものにしかならないだろうと考えられた。しかしながら、調査結果は強い影響力を持つものだった為、それはペルーの文化や公共的な議論の場に根付かせられなければならなかった。つまり、過去についての真実が行動を変革するものとなるために、それは記憶にならなければならなかったのである。

講師紹介：Dr.Salomón Lerner Febrés (1944-)：リマ市（ペルー）生まれ。現在ローマ教皇庁立ペルー・カトリック大学名誉学長・教授 兼「民主主義と人権問題研究所」IDDE 所長。ルーヴァン・カトリック大学（ベルギー）で哲学博士号を取得（1973）。1994年から2004年まで、同大学学長。その間、1999年から2004年まで「ラテンアメリカ大学連合」UDUALの会長、2000年より2003年まで大統領直属の「真実・和解委員会」Comisión de la Verdad y Reconciliaciónの委員長を歴任。人権擁護に尽くした功績をたたえて、国内はもとより、スペイン、ドイツ、ポーランド、チリなど、海外の政府および大学から数多くの勲章や名誉博士号を受ける。2002年8月にはフランス政府からレジョン・ド・ヌール騎士勲章を受章。近著に *Universidad, Fe y Razón* (Lima 2007) がある。

日時 2008年3月18日 18:00～20:00

会場：大阪大学中之島センター 7階 講義室2（参加無料）

お問い合わせ先：

大阪大学大学院人間科学研究科人類学研究室

e-mail: globalra@hus.osaka-u.ac.jp

電話 06-6879-8085

06-6877-5111

染田 秀藤 (Hidefuji SOMEDA)

大阪大学大学院人間科学研究科地域研究講座

TEL: 072-730-5422